

地域と守る 美しい里山

～小学校から広げる森づくり～

京都府 長岡京市立 ^{こうたり}神足小学校 4年

大谷 萌 大前 有理 大柳 泉美 阪本 三奈
 村上 奏 前田 珠里 下山 桃花 吉田 琴美
 黒木 結晟 西堀 修司 森 大騎
 森田 和磨 山内 琳太郎



学校紹介

地域の方とともに歩む神足小



神足小学校は、創立139年目を迎える伝統校であり、地域の方とのつながり、結びつきが大変強い。毎日のように学校に足を運んでくださり、児童の教育活動に大きく関わってくださっている。一昨年、地域の方々の協力により井戸を掘り、地下水を汲み上げられるポンプを設置していただいた。児童が育てる朝顔やひまわりなどの水遣り、掃除での雑巾がけに活用している。また、昨年度は、夏休みの期間中に中庭に“ピオトープ”を造成していただいた。さらに今年度は、地域のボランティアの方々と共に、ホタルの飼育に取り組んでいる。幼虫から孵化したホタルを児童や保護者に見てもらおうと計画し、その日の夜は中庭に多くの人が集まり、蛍の光とともにひと時を過ごすことができた。一人ひとりが、また学校全体が地域の方と強く結ばれている。

活動場所

薪ストーブの導入から環境教育の充実

神足小学校は平成21年度から独立行政法人森林総合研究所と連携し、里山授業や西山での柴拾い、次世代育成のためのどんぐりの苗づくりなどの体験活動を行っている。3年生の時には、森林ボランティアの方々にお世話になり、実際に西山へ行き、木や森の育ち、動物のこと、更には自分たちの生活へのつながりなど、体験を通して感じたこと、考えたことをもとにさらに調べながら環境教育を進めてきた。とりわけ、図書室に設置された薪ストーブは、自然の恩恵を受けて生活していることを実感することが少ない児童にとって、大変新鮮であった。木のぬくもりを体全体に感じながら、図書室でゆっくりと読書する児童の姿が見られ、憩いの場となっている。薪ストーブの火入れ式には、ボランティアの方々を招き、日ごろの感謝をこめて元気な歌声をプレゼントした。3年生の時、西山で拾ってきたどんぐりが芽を出し、現在大きく成長を続けている。秋に、再び、西山に返せるよう、毎日水やりに取り組んでいる。



サミットに参加してみよう...

今復の夢・希望・活動計画

再生活動の成果と展開

『小さな命を大切に』これは、児童の大きな変化である。どんぐりがぐんぐん育つように、毎日自ら水やりに取り組んでいる。また、4年生になって理科の学習でヘチマやひょうたんを育てているが、観察で気づいた小さな変化を、文章や絵にしてまとめられるようになった。校庭にグリーントネルができることを夢見て、ヘチマやひょうたんに毎朝、毎夕、欠かさず水やりをする姿は、子どもたちの小さな命を大切に育てたい、という思いの表れである。9月の運動会の頃には、大きく成長したグリーントネルの中で涼むことができるし、他の児童が休息する様子を見て、自分たちが大切に育てたことで、みんなの役に立てた喜びを感じることができるだろう。

この活動の最大の課題は、物理的な距離間である。「学校林」ではないため日常的な活動ができない。そこで、それを補うため、次のような学習や活動を積み重ねることで、児童の興味関心を持続させられるよう工夫し、努力した。

- ①森林総合研究所の方の話を数回に分けて聞くこと。
- ②教師が事前に打合せをして授業すること。
- ③木を使った作品をつくることや自然に関する絵を描くこと。

児童たちは、高学年になっても田や竹林など、地域の方と共に緑と触れ合える場がある。この再生活動で学んだことが、一人ひとり中に息づいていることを期待したい。また、多くの支え、つながりの中で自分たちが生きている、生かされていることを体得できる人に育ってほしいと願っている。



地域と守る美しい里山 ～小学校から広げる森づくり～

京都府長岡京市立神足小学校

大谷 萌・大前 有理・大柳 泉美・黒木 結晟・阪本 三奈

下山 桃花・西堀 修司・前田 珠里・村上 奏・森 大騎・森田 和磨・山内 琳太郎・吉田 琴美

長岡京市立神足小学校は、学校をはさんで東西に JR と阪急電車が通り、JR 長岡京駅からは徒歩3分のところにあります。交通量の多い街の中ですが、市内には竹林や里山（西山）などの緑が豊かに残っています。

□神足小の特徴

地域の方々と一緒に様々な活動をしています。校舎の前には地域の方の協力で毎年グリーントンネルが作られます。ヘチマやゴーヤー、朝顔などをほくたち4年生が毎日水やりをして育てています。また、田んぼでは田植えの仕方を教えていただいたり、苗を用意したりしていただくなどお世話になっています。学校内に竹林を造っていただき、たけのこほりをするなど、地域と強く結びついて貴重な体験をさせてもらっています。



☆図書室に薪ストーブ☆

図書室には薪ストーブがあります。毎年3年生が西山に薪を拾いに行きます。自分たちが拾ってきた薪や落ち葉を使って火をつけます。火を見るだけで自然と暖かさが伝わってきます。

☆どんぐりを育てよう☆

西山は学校からはなれた所にあります。バスで15分、そこから歩いて約1時間。ストーブで燃やす薪や柴を拾うだけではなく、地域のボランティアの方に教えてもらって、木で工作をしたり動物の足跡を観察したり、様々な活動をしました。そこで、拾ったどんぐりを育て、もう一度西山に返そうという里山再生活動が始まりました。

どんぐりを拾う時から真剣。ちゃんと芽が出るかな？早く大きくなってほしいなど、ときどきしながらどんぐりをポットに植えました。どんぐりの種類や育て方、その他に木の秘密など、たくさんのことを教えてもらいました。今までずっと遠くに感じていた森や木が、ほくたちの生活とつながっていることがだんだんわかってきて、身近に感じられるようになってきました。



☆絵や木工作品にする☆

まず、西山の間伐材を利用して工作をしました。どんなものを作ろうかワクワクしました。のこぎりで木を切り、釘打ちをしました。なかなか思うようにいきません。なぜなら木によって硬さが全然ちがうからです。見るだけではわからなかったけれど、実際に触れることで、木にも個性があるんだなあと思いました。次に、自然をテーマに絵を描きました。森と動物とほくたち人間が、みんな仲良く、楽しく暮らせることを願いながら、「長岡京市だけでなく、世界中をこういう所にしたいなあ」と思いました。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- ・活動当初から「自然は大切だ」と理解することはできていたが、体験活動の実践を通して、より身近なこととしてとらえ、「知っている」から「(自分たちが)している」ことが強く関わることを学び実感することができた。
- ・どんぐりという馴染みのあるものを大切に育てることを通して、小さな命を守ることの責任や喜びを感じることができた。そのことで、他の植物や動物など自然との関わりを積極的にもとようとする児童が増えてきた。
- ・一連の活動や子どもサミットでの発表を通して、自分たちの代で終わらせるのではなく、これから出会う人や学校の人（主に低学年）にこの活動とその心を伝えていきたいという願いを抱く子どもたちの姿が見られた。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

- ・専門的な知識や技術を必要とするため、森林総合研究所や里山再生ボランティア等の外部講師を頼む必要があった。
- ・活動場所である西山が遠いため、数多く足を運ぶことができず、その場限りの“楽しい”だけの活動に陥りがちな面があった。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

- ・外部講師やボランティアの協力と活用
 - ⇒ 森林総合研究所や市役所、西山再生ボランティアの方々など、たくさんの方に活動するにあたってご協力をいただいた。この方々なしに、今回の活動は為し得なかった。子どもたちに新しい気づき、驚きなどの発見を与えてくださり、そこで芽生えた疑問に的確・適切に答えていただいたことで、子どもたちの更なる興味関心の高揚につながった。
- ・教師の研修と授業づくり
 - ⇒ 講師の方々にも来ていただくことができないので、教師がどんぐりや木のことについて学び、そのことを授業化することに取組んだ。専門的な知識を教えていただくことに加え、児童の実態を把握している教師が自ら授業することで、児童の反応に合わせて教えたいことや考えさせたいことなど、ねらいをしぼって学習を展開することができた。
- ・各教科との関連を図る
 - ⇒ 西山での活動は物理的に頻繁に行うことができないので、児童の興味関心、活動への意欲を継続させるために、各教科の学習において関連を図った。例えば、図画工作科では、西山で拾った木材を活用してのこぎりやくぎを活用して創作活動を行ったり、自然や動物、人間の理想の未来を思い描いた絵画作品を描いたりした。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

- ・今後の方向性としては、活動の中心学年として3年生で里山再生活動を行っていきたい。図書室に導入されている薪ストーブをこれからも活用していくために、薪や柴刈りを継続して行い、西山での活動や火入れ式などは、神足小学校の活動の一つとして定着させていきたい。また、4年生では理科の植物との関わりからグリーントンネル（ゴーヤ、ヘチマ、アサガオなど）の取組、5年生では、田んぼでの稲作、社会科での環境保全活動の学習、6年では、さらに広い視野で課題をもって一人ひとりが課題を設定し、追求して行くことができるようにしたい。
- ・今年の秋に昨年から育ててきたどんぐりの木の植樹を行うので、10年後、20年後に子どもたちと共にその生長を確認し、より住みやすいふるさとづくりに貢献してくれることを期待している。

京都府 長岡京市立 こうたり 神足小学校

百年後のふるさとを守る 学校林活動

京都府 木津川市立 ^{たなくら} 棚倉小学校
6年 小笹 優佳 中西 悠貴

各小学校の取組
⑭

学校紹介

棚倉小学校は木津川市の最北に位置し、明治5年に創立された141年の歴史をもつ学校で、13学級、全校児童数 328名の小規模校です。

校区には、今昔物語の「かのにの恩返し」説話や、大きな釈迦如来坐像（白鳳時代）で有名な蟹満寺^{かにまんじ}、また、国の重要無形民俗文化財に指定されている奇祭「いごもり祭り」・宮座行事やイチイガシの森で知られる涌出宮^{わきでのみや}があります。伝統あるいごもり祭りや宮座行事には本校の児童も役目をいただき、参加しています。

学校の伝統的な取組としては、模擬道路を使っての自転車検定を行っており、今年で47年間続いています。



活動場所

約3haの学校林は、地域の人々が共有財産として祖先から受け継ぎ大切に守り育ててこられた山の一部を学習のために借り受けたものです。学校から蟹満寺^{かにまんじ}の前を通り、5kmほど山道を登ったところに「学校林」があります。

昭和の初め頃までは小学生の手で守り育ててきましたが、戦争が始まり山の手入れより食料づくりということで、手入れも長く途絶えていました。

昭和47年から育友会（今のPTA）によって手入れが行われ出し、昭和52年から児童による学校林の手入れが復活しました。現在は、5年生で「自然教室」として実施しています。



サミットに参加してみよう…

今復の夢・希望・活動計画

① 100年後のふるさとを災害から守る一助に

校区には4本の天井川が流れており、学校林はその1本の上流の山にあたります。昔は校区の山は「はげ山」で、大雨のたびに土砂が流出し、天井川決壊による洪水の被害に苦しみました。地域の人々が一生懸命植林し、災害を防ぎ、子孫のために立派な山にして災害のない村づくりに励んでこられた思いを受け継ぎ、発展させたいと思います。

② 地域住民・保護者と共に

学校林での活動を学校から地域やPTAに積極的に発信し、地域の住民として山を守り、災害を防ぐ意識を校区に広めていきたいと考えています。



百年後のふるさとを守る学校林活動

京都府木津川市立柵倉小学校

1 柵倉小学校の紹介

明治5年6月25日創立、今年141年目の学校です。昔からある家と新しく住み始めた家とが混じりあっていて、児童数も毎年少しずつ増えてきています。平成24年度は13学級、328名です。みんな明るく元気に過ごしています。毎年5年生が、学校林で学習をしています。

2 学校林の紹介

学校から5キロほど山の中に入ったところにあり、柵倉財産区所有の約3ヘクタールを学校林として借り受けています。昔は、現在のように木のしげった山ではなく、「はげ山」や「草山」でした。そのため、雨が降ると土がけずられ、大雨になるたびに土や砂が流され、洪水になって下流の村や田畑に災害をもたらしました。川に砂が積もり、川底が高くなるにつれて堤防も高くしていき、今の天井川になりました。明治の初め、オランダ人のデ・レーケにより、柵倉に日本最初の西欧式砂防工事が行われました。石造ダムも造られ、山に松や肥料用の木として「はげしぼり」なども植えて土や砂が流れないように努力がくりかえされました。柵倉の人たちは、山に一生懸命植林し、災害を防ぎ、子孫のために立派な山にしようとはげんでこられました。学校を建てるときにも、学校林などの木を売って資金の一部に当てました。私たちが祖先のこの気持ちを受けついで山を守り、百年後も災害の起こらないふるさとにしたいと考えています。

3 活動内容や様子

(1) 事前学習 学校林や森林の働きと大切さを学びました。

(2) 当日の活動

山道を歩いて途中、光明山寺の説明を聞きました。学校林に到着し、指導してくれた方の自己紹介を聞き、森林クイズをしました。その後、木登り体験をし、枝打ちを見せてもらいました。次に、ヒノキの苗を植えました。昼食後、間伐と丸太切りを体験しました。

光明山寺は、奈良の東大寺の僧たちが学問をしていたところで、柵倉小学校の校歌に入っています。木登り体験では、自然にふれ、とっても勉強になりました。間伐は、グループで協力しあって仲間と自然の大切さがわかり、よかったと思いました。もらった丸太は家に持ち帰りました。

(3) 事後学習とまとめ

学校に帰って学習の振り返りと感想を書きました。切った丸太を家に持ち帰って皮をむき、きれいにみがきました。ヒノキはとてもいい香りがして、まるで自然に囲まれているように感じ、リラックスできて、落ち着きます。自然や緑の大切さを体で感じることはめったにない機会です。私達は、柵倉小学校での活動を活かし、自然を大切にしていきたいです。



森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- (1) トイレもなく、携帯電話も通じない環境での体験活動を通して自然やふるさとを守り大切にすることを培い、林業を大切にし、森林を守る心が芽生えた。
- (2) 昨年度の春に、学校林の近くで山火事があり、消防自動車が入れず、消火用の水を確保できない状況での山火事で、大切な山林の相当面積を消失した。幸いにも近隣の消防署や消防団の協力により、5日間かかってようやく沈火した。その件が、児童や保護者の森林を守ることの理解や、意識の高揚に役立ち、例年以上に、しっかりと体験学習ができた。
- (3) 国語科5年生の新教材「百年後のふるさとを守る」の学習後に実施でき、自然災害への対策や100年、200年先を見通した活動として自分たちの活動をとらえることができた。今後も、崇高な活動として発展充実させていきたい。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

- (1) 学校林までの道が年々荒れた状態になり、児童の歩行や車での資材搬入が困難である。
- (2) 指導していただく方やボランティアの方との連携や打ち合わせに時間がかかる。
- (3) 国語の教科書・教材が変更になり、一昨年度までの「森林のおくりもの」の教材に替わる教材の発掘・研究が必要になった。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

- (1) 森林組合等のご厚意により、ボランティアさんを募って草刈りや歩く道の確保をしてもらっている。今年度は予算計上して除草作業を依頼できるようにした。また、一昨年度までは自家用の軽トラ（4輪駆動）を使用していたが、市の公用車を借りるようにしている。
- (2) 京都府山城南振興局、山城町森林組合、棚倉財産区、ボランティアと学校の5者が集まり、日程調節・計画・打ち合わせ・下見等をする必要があり調整に手間取るが、それぞれの窓口を決めて調整にあたっている。
- (3) 国語科5年生の伝記「百年後のふるさとを守る」（河田恵昭 著）が、1学期教材にありその学習を通して、ふるさとを災害から守るといふ本来の目標が明確になって、活動が有意義なものになった。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

- (1) 山に寄せられた先祖の心を受け継ぎ、これからどう発展させていけばいいか、日本や世界の環境問題と絡ませて考えられるようにする。
- (2) 協力してもらっている団体や、予算との関係もあり、年間複数回の実施は無理であるとする。そこで、PTA・保護者の協力を模索していきたい。